

株式会社 Green prop
2023年度・第39期
環境経営レポート

対象期間：2023年7月1日～2024年6月30日
発行日：2024年9月13日

目次

- 目次 1
- 組織概要 2
- 事業内容/事業規模 3～8
- EA21対象範囲 9
- 経営における課題とチャンス 10
- 特集 | GREEN PROP SUSTAINA BUILDING . . . 11
- 環境経営方針 12
- Green propの環境経営目標 13～14
- 第39期 環境経営目標・活動計画に対する実績 . . 15～16
- 第39期 環境経営活動報告 17～19
- 環境関連法規と遵守状況 20
- 第40期 環境経営マネジメントについて
 - 1. 対象の組織と活動 21
 - 2. 実施体制 21
 - 3. 第40期 環境経営目標 22
 - 4. 第40期 環境経営活動計画 23
- 代表者による全体評価と見直し 24
- Green propの理念 25～26

組織概要

- 商号 株式会社Green prop
- 代表者 川添 憲二
- 設立 1985年7月25日
- 資本金 2,000万円
- 従業員数 38名（2023年6月30日時点）

所属拠点	部門	正社員	準社員	計
本社	役員	2 名	0 名	2 名
	CS営業課	3 名	0 名	3 名
	CS管理課	2 名	0 名	2 名
	新業態開発室	1 名	0 名	1 名
	コーポレート部	1 名	0 名	1 名
物流本部	CS業務課	11 名	0 名	11 名
	CS管理課	1 名	0 名	1 名
	コーポレート部	1 名	0 名	1 名
中国支店	CS業務課	9 名	0 名	9 名
	CS管理課	0 名	1 名	1 名
東京支店	役員	1 名	0 名	1 名
	CS営業課	3 名	0 名	3 名
	CS管理課	1 名	0 名	1 名
	未来デザイン室	1 名	0 名	1 名
合計				38 名

- 売上高 1,449百万円（2024年6月決算/第39期）
- 拠点
本社：福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
東京支店：東京都港区芝4丁目13-12
中国支店：広島県大竹市北栄4-12
物流本部：福岡県筑紫野市大字永岡1315-10
大牟田出張所：福岡県大牟田市健老町472番地 大牟田エコタウン内
- 事業内容
1. 産業廃棄物収集運搬業
2. 特別管理産業廃棄物収集運搬業
3. 一般貨物自動車運送事業
4. 環境コンサルタント業
- エコアクション21事務局
担当者：榊原 美幸
TEL：092-922-1716
E-mail：kanri@greenprop.jp



廃棄物に関するあらゆるお困りごとを解決

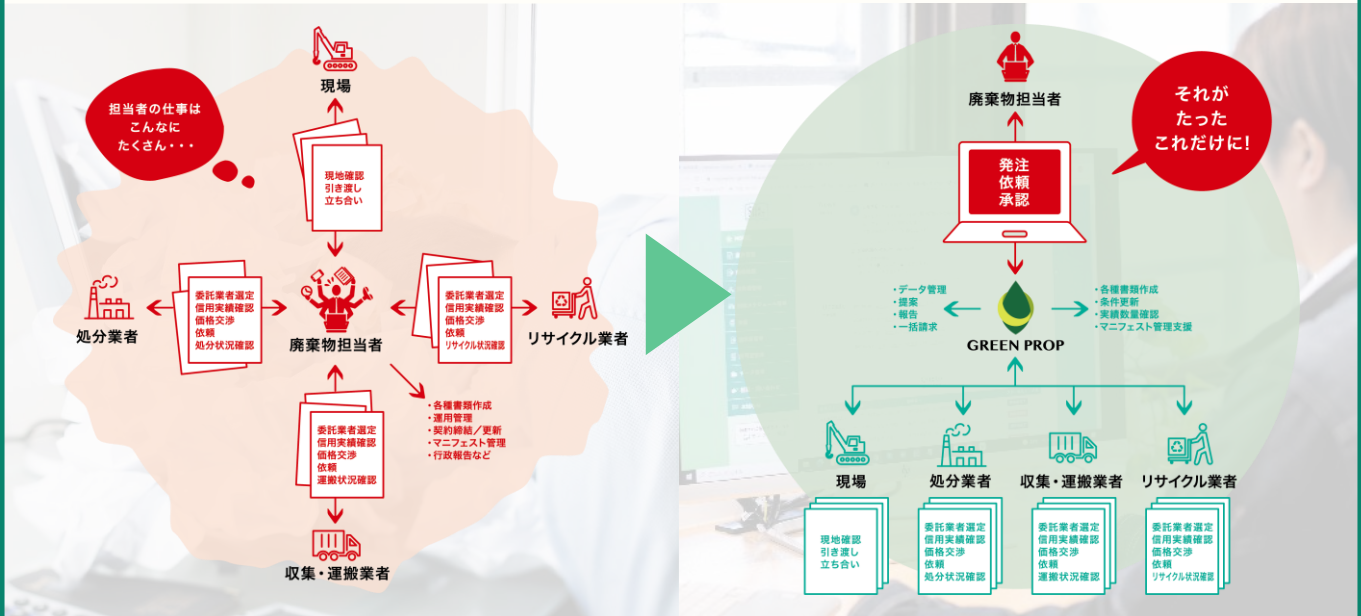
事業活動続ける限り、廃棄物は必ず発生するものです。
私たちGreen propは「持続可能な廃棄物処理」を追い続けています。
当社での廃棄物収集運搬はもちろん、お客様の要望から「真の課題」を見つけ、その課題解決をサポートいたします。

廃棄物に関わる複雑な業務を
Green propがチャチャッと解決！

CHACHAT

チャチャット

面倒で気の抜けない業務が多岐にわたり、本業を持ちながら担当するケースも多い廃棄物管理。
CHACHATを使えば、ひとつの窓口でやりとりするだけ。
業務効率もぐんとアップし、肩の荷もかくなります。



CHACHAT 〈スタンダード〉
DXを活用した廃棄物管理トータルソリューション

- 現地調査（オンラインや写真・動画データなどの調査も対応）
- 廃棄物処理委託業者選定
- 委託先信用実績確認
- 価格交渉
- 委託契約書準備
- 委託契約書データ管理
- 許可証データ管理
- 法的手続き書類準備
- 各種申請手続き代行
- 回収依頼調整
- 回収スケジュール等データ管理
- 実績数量・マニフェスト管理
- 委託条件更新調整
- 更新後委託条件データ管理
- 一括請求
- 請求書データ管理
- チャットでの実務相談・運用サポート



CHACHAT 〈プレミアム〉
特殊な廃棄物も含めた廃棄物管理や電子化支援など

- 石綿(アスベスト)事前調査
- 石綿(アスベスト)除去工事
- 各種分析業務
- 地下タンク等清掃洗浄作業
- フロン・SF6ガス等回収破壊業務
- 不用品のリユース買取業務
- 特殊大型機器運搬業務
- 電子マニフェスト導入支援
- 電子契約導入支援
- 廃棄物講習講師派遣

広域の運搬を低燃費で安全に
廃棄物の収集運搬

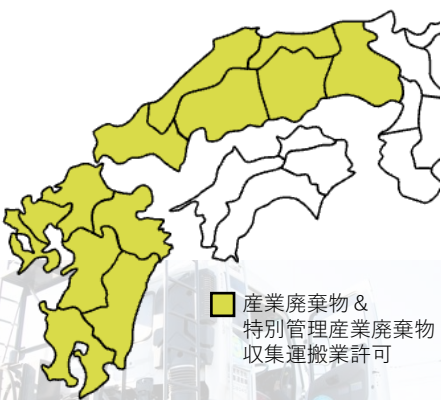
九州全域はもちろん、山口、広島、鳥取、島根エリアの収集も可能です。多様な品目の廃棄物収集運搬に対応するための、多様な車両を配備し、お客様のご要望にお応えします。

保有車種・台数 (2024年6月現在)

トレーラー	1台	7tアームロール車	2台
ジェットバック車	10台	4t平ボディ車	1台
13tウイング車	2台	2t冷蔵冷凍車	1台
10tローリー車	1台	2tパワーゲート車	1台
10tダンプ車	1台	ハイエース	1台
10tアームロール車	3台	乗用車	5台
7tヒアブ車	1台		
		合計 34台	

許可取得エリア

- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 山口県
- 広島県
- 島根県
- 鳥取県
- 岡山県
- 兵庫県



地域の特徴・特性を活かした資源循環を
資源循環化サービス

廃棄物という概念のない、100%資源循環型社会へ向け、現在の運用見直しや新しい資源循環フローの構築までトータルでサポートいたします。
事業内容やお悩みに合わせて、一つ一つオーダーメイドでご提案させていただきます。

資源循環事例

以前の対応

使い古したタイヤの処分先が見つからずに困っていた

Green propの提案

タイヤをチップ化する機械を導入し、ボイラーの燃料として使用される納品先までをコーディネート

結果

タイヤの再資源化に成功。処理会社には新しいサービスが誕生しボイラー燃料のコスト削減も叶えた。



事業規模 | 廃棄物事業

1. 廃棄物収集運搬量

39期（2023年7月～2024年6月）収集運搬量実績 (単位：t)

産業廃棄物収集運搬量及び特別管理産業廃棄物収集運搬量	54,259.11
自治体委託廃棄物収集運搬量	18,209.17
その他運搬量	410.81
合計	72,879.08

産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物収集運搬量 詳細 (単位：t)

区分	廃棄物の種類	収集運搬量	区分	廃棄物の種類	収集運搬量
産業廃棄物	燃え殻	852.07	特別管理 産業廃棄物	引火性廃油	134.63
	汚泥	2,609.85		引火性廃油(有害)	0.00
	廃油	152.33		強酸	5.21
	廃酸	847.67		強酸(有害)	0.00
	廃アルカリ	685.88		強アルカリ	0.01
	廃プラスチック類	670.76		強アルカリ(有害)	0.00
	紙くず	22.88		感染性廃棄物	174.78
	木くず	316.48		廃石綿等	279.92
	動植物性残渣	175.98		鉱さい(有害)	0.00
	金属くず	184.70		燃え殻(有害)	0.00
	ガラスくず等	122.84		廃油(有害)	0.01
	鉱さい	0.00		汚泥(有害)	0.01
	がれき類	202.20		廃酸(有害)	0.02
	ばいじん	45,385.07		廃アルカリ(有害)	0.08
13号廃棄物	0.00	ばいじん(有害)	92.10		
混合廃棄物	1,343.62				
産業廃棄物合計		53,572.34	特別管理産業廃棄物合計		686.77
総合計					54,259.11

自治体委託廃棄物収集運搬量 詳細 (単位：t)

区分	廃棄物の種類	収集運搬量
自治体委託 廃棄物	ばいじん	16,294.38
	燃え殻	1,675.49
	布団	124.56
	一般廃棄物残渣	73.81
	ビン	13.94
	廃蛍光灯	4.13
	廃乾電池	6.72
	廃家電	13.53
	廃血圧計	0.01
	廃タイヤ	2.60
合計		18,209.17

その他運搬量 詳細 (単位：t)

区分	廃棄物の種類	収集運搬量
その他	再生資源(金属)	362.98
	再生資源(プラスチック)	2.76
	再生資源(古紙)	13.41
	汚染土壌	31.66
合計		410.81

2. 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物収集運搬業の許認可範囲

●：産業廃棄物品目 ○：特別管理産業廃棄物品目

許可自治体	許可区分	許可番号	許可年月日 許可有効期限	優良 評価 制度	積替 保管	許可品目																							
						燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	がれき類	鉄さい	ばいじん	動物植物性残さ	動物系固形不要物	動物の糞尿	動物の死体	産業廃棄物処理物	13号廃棄物	感染性廃棄物	廃石棉等	
福岡県	産廃 収集	04000008045	2022年7月14日 2028年7月13日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	04050008045	2017年7月18日 2024年7月17日	優	無	○	○	○	○	○									○	○				○	○	○			
佐賀県	収集 運搬	04103008045	2021年5月13日 2028年5月12日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	04153008045	2017年12月16日 2024年12月15日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
長崎県	収集 運搬	04200008045	2017年9月29日 2024年9月28日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●						
	特管 収集	04250008045	2017年9月6日 2024年9月5日	優	無	○	○	○	○	○									○	○				○	○	○			
大分県	収集 運搬	04407008045	2022年9月26日 2029年9月25日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	04457008045	2022年11月21日 2029年11月20日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
熊本県	収集 運搬	04305008045	2022年9月20日 2029年9月19日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●						
	特管 収集	04355008045	2018年6月20日 2025年6月19日	優	無	○	○	○	○	○									○	○				○	○	○			
宮崎県	収集 運搬	04500008045	2018年2月6日 2025年2月5日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	04550008045	2018年2月7日 2025年2月6日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
鹿児島県	収集 運搬	04607008045	2023年2月1日 2030年1月31日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	04657008045	2023年2月2日 2030年2月1日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
山口県	収集 運搬	03500008045	2018年7月26日 2025年7月25日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	03550008045	2019年6月5日 2026年6月4日	優	無	○	○	○	○	○									○	○				○	○	○			
広島県	収集 運搬	03401008045	2018年11月9日 2025年11月8日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	03450008045	2021年10月16日 2028年10月15日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
島根県	収集 運搬	3200008045	2021年8月3日 2028年7月13日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●								
	特管 収集	3250008045	2021年8月3日 2028年7月13日	優	無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
鳥取県	収集 運搬	03104008045	2021年9月26日 2028年9月25日	優	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●								
	特管 収集	03154008045	2021年9月26日 2028年9月25日	優	無	○	○	○	○	○									○						○	○			
岡山県	収集 運搬	03300008045	2022年7月4日 2027年7月3日		無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	03350008045	2022年7月4日 2027年7月3日		無	○	○	○	○	○									○	○					○	○			
兵庫県	収集 運搬	02804008045	2023年1月20日 2028年1月19日		無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	特管 収集	02854008045	2023年1月20日 2028年1月19日		無	○	○	○	○	○									○						○	○			

※福岡県 特別管理産業廃棄物収集運搬許可は2024年6月28日に更新申請を提出・同日管轄保健所にて受領され更新手続き中（2024年8月29日時点）

事業内容 | CSR経営サポート



「CSR経営」に取り組む企業のベストパートナー

Green propは30年以上、私たち自身がCSR経営を実践してきました。また、まだ社会事業という言葉もない時代から環境事業を行っており、その中で得た経験や実績を元にして、「世のため、人のため」の経営にシフトしたい企業や組織のリデザインをサポートしていきます。

CSR経営を行うメリット

組織力の強化と経営の安定化

CSR方針を明確にすることは、従業員への企業ビジョンの再確認や周知・浸透にも効果があります。

CSRによる従業員の意識改革は企業全体の成長にもつながり、結果的に経営の安定化へとつながっていきます。

コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスとは法令遵守と訳されることが多いですが、法令だけでなく企業が社会的責任を果たすことなども含まれています。そのため、CSRを策定し、発信していくことはコンプライアンスの遵守にもつながっていきます。

ステークホルダーの満足度向上

CSRの対象は、株主、取引先、従業員、地域住民など、企業が関係するステークホルダー(利害関係者)全てです。

企業として「どのように社会課題に向き合い、解決を図っていくか」を発信することは、ステークホルダー全体の満足度の向上につながっていきます。

企業価値・ブランドイメージの向上

CSRへの取り組みは、企業価値や企業ブランドイメージを向上にも繋がります。

企業の地域社会への貢献をCSR活動報告として公開することで、企業の社会的存在の価値を証明し、企業ブランドのイメージを向上させ、競合他社と差別化も期待できます。

事業内容 | CSR経営サポート

Step1 戦略

CSRコンサルティング

CSR経営を行っていくには、最初にCSR方針やCSR目標・計画の策定を行い、その後に推進体制の構築・強化が重要です。経験豊富な専用スタッフがCSR基盤づくりを支援します。

実施内容

- ビジョン・ブランドコンセプトの整理
- CSR方針とKPIの策定
- CSRマネジメント体制の整備
- 活動実施サポート



Step2 体制構築

環境・CSR教育

CSRを実践していくのは、働く社員一人ひとりです。CSRとは何か？という基礎教育から、CSR推進者向け教育、その他テーマに合わせた教育など、CSRカリキュラムに沿って実践の基礎づくりをサポートします。

実施内容

- CSR基礎教育
- CSR推進者向け教育
- 各テーマ別教育



Step3 レポート

CSRレポートの 企画・制作

CSR経営では、取り組みをいかにステークホルダーに伝え評価を得るかが重要です。「何を、誰に、どうやって伝え、評価を得るか？」などの最適なコミュニケーションプランで「伝わるCSR」をサポートします。

実施内容

- ターゲット・コンテンツの選定・企画
- メディアの選定（CSRレポート/Webサイト/動画など）
- 各種媒体の企画・制作
- フィードバック手段の企画・実行支援



その他ソリューション

省エネ設備導入



LED照明導入等による省エネを実現します。

ライフサイクル アセスメント



製品・サービスの原料調達から廃棄までの環境影響を定量的に評価します。

カーボנקレジット



自らで削減できないCO₂排出量を他の場所での排出削減・吸収量にてオフセット。クレジット創出もサポートします。

環境ラベリング



エコリーフ、CFP等のラベル認定、手続きなどをサポートします。

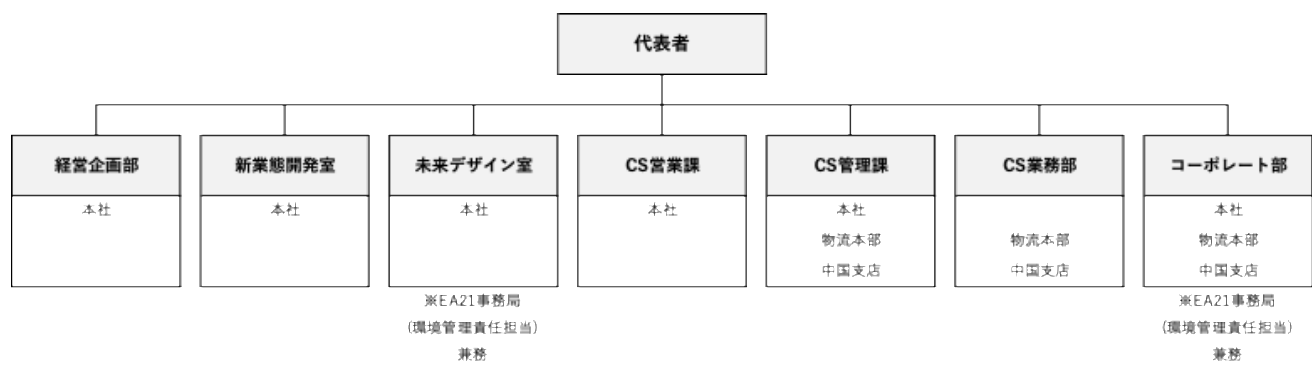
EA21対象範囲

1. 対象の組織と活動

対象組織 本社、物流本部、中国支店
※2024年4月、東京支店の開設に伴い東京営業所（東京都中央区日本橋）は東京支店に統合。
東京支店は第40期（2024年7月～）からEA21対象範囲として活動開始
※大牟田出張所は客先構内の休息所として設けられたもので、客先でISO14001認証取得済のため対象組織から除外

- 対象活動**
- (1)産業廃棄物収集運搬業
 - (2)特別管理産業廃棄物収集運搬業
 - (3)一般貨物自動車運送事業
 - (4)環境コンサルタント業

2. 実施体制



役割・責任・権限

代表者	・ 経営における課題とチャンスの明確化 ・ 環境経営方針の策定 ・ 環境経営システム全体の評価及び見直し ・ 環境経営資源の確保
EA21事務局 (環境管理責任担当)	・ 環境経営システムの構築・運用・管理 ・ 環境経営レポートの作成 ・ 環境教育や環境活動等の統括 ・ その他エコアクション21に関する業務全般 ・ 各部門の環境活動実行推進
従業員	・ 環境経営方針及び環境目標を理解し、業務の中で環境経営システムの運用実施 ・ 環境活動の実行

経営における課題とチャンス

当社のビジネス環境やステークホルダーからの期待・要望を考慮し、経営における課題とチャンスを整理しています。整理した結果に基づき、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点から社会課題の把握を行い、当社における重要度とステークホルダーにおける重要度を評価し、重要課題を特定しています。特定した重要課題は、当社CSRの指針に反映しています。

エコアクション21のマネジメントシステムでは、その中でも環境面における重要課題解決に向けた取り組みを実行していきます。

経営における課題とチャンス

	課題	チャンス
外部環境	・「持たない」サービス増加	・廃棄物処理のインフラ認識向上
	・本当に必要なものを買う傾向に変化	・脱炭素政策の増加
	・製造者による自ら処理(資源活用)の増加	・プラスチック循環戦略の本格化
	・地球温暖化の加速化→天災の増加	・豊かさ向上による処理困難物の増加
	・ロシア・ウクライナ戦争等による物価高騰	・ソフトローの威力増大
	・人口減少→廃棄物の減少	・IT・IoTの需要拡大
		・時間・場所・環境に囚われない働き方
		・社会全体のCSR・SDGsへの取り組み増加
		・人的資本経営の重要性向上
内部環境	・非対面サービスの増加→購買フローの変化	
	・運行に伴う燃料使用・排ガス放出	・事業活動による環境・CSR意識の日常的な向上
	・ドライバー技術の伝承と育成	・適正処理・リサイクルのニーズ向上
	・社員の環境・CSR育成	・ミレニアル世代の増加
	・事業承継	・オンラインを活用した働き方の定着
	・BCPの必要性向上	・多事業展開で事業間シナジーの実施
	・自律分散型組織運営の促進	



CSRマテリアリティ（重要課題）

ESG 重点課題	内容	関連SDGs・GOAL
Environment 環境		
脱炭素社会	気候変動への対応、エネルギーの使用、創エネ	
資源利用	水や物的資源の利用	
廃棄物管理	廃棄物発生量抑制、適正処理・リサイクル、廃棄物管理サービス拡大	
Social 社会		
安全衛生	自社・ステークホルダーの安全衛生確保	
地域コミュニティ	地域活動参画、地域内の環境配慮・CSR推進	
人財経営	雇用の安定、自律した人財の活躍推進	
Governance ガバナンス		
自律分散型組織運営	持続可能な組織運営・財務運営スタイルの定着	
事業継続	持続可能で安心した事業スタイルの構築と定着	

TOKYO TAMACHI



2024年4月、東京都港区芝・田町エリアに新しい拠点となる東京支店を開設しました。
東京支店が入る〈GREEN PROP SUSTAINA BUILDING〉（通称：サスティナビル）は、
私たちのビジョンである「持続可能な未来のために」を体現する空間になりました。

1F コミュニティスペース

サスティナビルをテーマに、業種の壁を超えた新たな出会いや発見が生まれる場所。私たちと同じようなビジョンをもち活動を行っている個人・企業・団体様に使っていただきながら、つながりをつくっていきたくと願っています。



2F ミーティングルーム

廃棄物処理や脱炭素、CSR経営のご相談はこちらのスペースでゆっくりじっくり行いましょう。その他、クラウドも活用しながら廃棄物管理を行うサービス「CHACHAT（チャチャット）」を体験していただくこともできます。



3F 東京支店オフィス

当社の廃棄物事業、CSR経営サポートを展開していくGreen propの東京支店としてのオフィス業務を行います。常時本社と接続しているテレプレゼンシステムも導入し、より連携してサービス展開していきます。



Green propらしい、新しい拠点づくり

自律分散型の組織運営に移行して1年が経ち、より提供価値を最大化するために東京支店開設プロジェクトがスタートしました。

プロジェクトのテーマとしていたのは、たくさんの人と関わりながら新しいGreen propをつくっていくこと。自律分散型組織に関心がある方とどんな拠点にしたいかディスカッションしたり、リノベーション工事も分野ごとに多くの事業者様に携わっていただきながら進めていきました。そのおかげで、オープニングイベントには100人を超える方にご参加いただきました！



プロジェクトの様子をFacebookグループで公開しながら進めていきました！

地域になる屋形船で開催したオープニングイベントでは、当社の歴史を講談という形でお伝えしました！



環境経営方針

基本理念

持続可能な未来のために、事業活動と密接に絡んだ
環境影響の改善を推進する。

方針

1. 環境影響を管理するためのPDCAサイクルを確立・運用し、
環境パフォーマンスの向上にむけて継続的な改善を図ります。
2. 環境関連法規等のコンプライアンスを遵守し、積極的にステーク
ホルダーとの対話を行います。
3. 廃棄物の適正処理や資源循環の拡大は、当社の社会からの使命
と捉え、自社の管理とステークホルダーの環境改善推進を
行います。
4. 適正なエネルギー・資源の使用を迫及することを重点項目とし、
事業活動に伴う環境影響の最小化を図ります。
5. 気候変動や感染症などの有事の想定と備えを行い、安全の確保と
安定した経営を実現します。
6. SDGs達成に向けて、特に環境・CSR分野におけるコミュニ
ケーション活動を推進し、ステークホルダーと共に持続可能な
未来環境の共創を目指します。

株式会社 Green prop

制定日：2018年1月1日

改定日：2024年7月1日

代表取締役社長

川添 竜二

Green propの環境経営目標

自律分散型の組織運営スタイルでより各事業における環境経営の状況と成果が見えるよう、39期から新たな環境経営目標を設定し、環境経営の促進から持続可能な企業への進化を目指して活動を推進していきました。

環境経営目標（39～41期／2023年7月～2026年6月）

KPI項目		基準年	中期目標		
決算期		38期	39期	40期	41期
開始年月/終了年月		2022年7月 /2023年6月	2023年7月 /2024年6月	2024年7月 /2025年6月	2025年7月 /2026年6月
CO ₂ 排出量 削減 [※]	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /年)	1,147,301	1%削減 1,135,828	2%削減 1,124,355	3%削減 1,112,882
	走行距離あたりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /km・年)	743.55	1%削減 736.12	2%削減 728.68	3%削減 721.25
電気使用量 削減	電気使用量 (kWh/年)	36,960	1%削減 36,590	2%削減 36,221	3%削減 35,851
	売上あたり電気使用量 (kWh/百万円・年)	35.74	1%削減 35.39	2%削減 35.03	3%削減 34.67
燃料使用量 削減	軽油使用量 (L/年)	431,388	1%削減 427,075	2%削減 422,761	3%削減 418,447
	ガソリン使用量 (L/年)	8,871	1%削減 8,782	2%削減 8,693	3%削減 8,605
	走行距離あたり軽油使用量 (L/百km・年)	279.58	1%削減 276.78	2%削減 273.99	3%削減 271.19
一般廃棄物 排出量削減	一般廃棄物排出量（古紙を除く） (kg/年)	622.3	1%削減 616.08	2%削減 609.85	3%削減 603.63
	従業員1人あたり一廃排出量 (kg/人・年)	15.96	1%削減 15.80	2%削減 15.64	3%削減 15.48
水使用量 削減	水使用量 (㎡/年)	203.5	1%削減 201.47	2%削減 199.43	3%削減 197.40
	従業員1人あたり水使用量 (㎡/人・年)	5.22	1%削減 5.17	2%削減 5.11	3%削減 5.06
グリーン購入の推進 (適合製品比率 %)		22	1%向上 23	2%向上 24	3%向上 25
ドライブレコーダー平均点 (点)		82.7	1点向上 83.7	2点向上 84.7	3点向上 85.7
地域活動参加・実施回数 (回/年)		19	2回増加 21	3回増加 22	4回増加 23
環境・CSR教育実施回数 (回/年)		13	2回増加 15	4回増加 17	6回増加 19
BCP(事業継続計画)の策定と運用		BCP策定中	BCP策定完了	BCP運用開始	BCP運用改善

※CO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り
(温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度「電気事業者別排出係数 -R3年度実績- R5.1.24 環境省・経済産業省公表」参照)
[本社,物流本部] 五島市民電力 調整後排出係数 0.332kg-CO₂/kWh
[物流本部-洗車設備] 九州電力 調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh
[中国支店] 中国電力 調整後排出係数 0.536kg-CO₂/kWh

Green propの環境経営目標

環境経営目標のうちCO₂排出量、電気使用量、燃料使用量の把握について、総量のための把握では事業活動の拡大・縮小が結果に大きく起因し、個別のエコアクション活動（環境経営活動）の効果を適切に評価することができません。そのため、総量を年間の売上高で除した原単位で目標値を設定しています。

当社が設定している原単位	
走行距離あたりCO ₂ 排出量	$\text{CO}_2\text{排出量(kg-CO}_2\text{/年)} \div \text{走行距離(百km)}$
売上あたり電気使用量	$\text{電気使用量(kWh/年)} \div \text{売上高(百万円)}$
走行距離あたり軽油使用量	$\text{軽油使用量(L/年)} \div \text{走行距離(百km)}$
従業員1人あたり一般廃棄物排出量	$\text{一般廃棄物排出量(kg/年)} \div \text{平均従業員数(人)}$
従業員1人あたり水使用量	$\text{水使用量(m}^3\text{/年)} \div \text{平均従業員数(人)}$

当社のエコアクション活動は、SDGs（持続可能な開発目標）で表現されている社会課題とも連動していると考えております。KPI項目ごとに、関連するSDGsのGOALを設定し、より広い視野を持ったエコアクション活動の推進を行っています。

KPI項目	関連するSDGs		
	GOAL		
CO ₂ 排出量削減		13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
電気使用量削減	 	7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
		12	持続可能な生産消費形態を確保する
燃料使用量削減	 	7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
		12	持続可能な生産消費形態を確保する
一般廃棄物排出量削減		12	持続可能な生産消費形態を確保する
水使用量の削減		12	持続可能な生産消費形態を確保する
グリーン購入の推進		12	持続可能な生産消費形態を確保する
ドライブレコーダー平均点	 	3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
		7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
地域活動参加・実施回数	 	11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
		17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
環境・CSR教育実施回数		17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
BCP(事業継続計画)の策定と運用	 	8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
		9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

第39期 環境経営目標・活動計画に対する実績

1. 第39期 環境経営目標 実績評価

[評価基準] 目標達成：○、活動実施・目標未達：△、活動未実施：×

KPI項目		基準年	単年度目標	単年度実績	実績評価	
決算期		38期	39期	39期		
開始年月/終了年月		2022年7月 /2023年6月	2023年7月 /2024年6月	2023年7月 /2024年6月		
CO ₂ 排出量 削減※	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /年)	1,147,301	1%削減 1,135,828	2.2%削減 1,121,790	○ 軽油使用量、電気使用量共に削減となり、総CO ₂ 排出量は減少。走行距離あたりも削減となった。	
	走行距離あたりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /km・年)	743.55	1%削減 736.11	1.2%削減 734.64		○
	電気使用量 削減	電気使用量 (kWh/年)	36,960	1%削減 36,590	6.8%削減 34,453	○ 本社・物流本部・物流本部の洗濯機で減少した。出張が増えたなど事務所稼働負荷の減少、車両精査による洗濯機使用時間の減少が要因。
		売上あたり電気使用量 (kWh/百万円・年)	35.74	1%削減 35.38	33.5%削減 23.78	
燃料使用量 削減	軽油使用量 (L/年)	431,388	1%削減 427,074	2.8%削減 419,477	○ 営業活動として遠方現場が多くガソリン使用量は増加した。軽油使用量は走行距離減少に比例しており、古い車両精査により燃費が改善。走行距離あたりの軽油使用量も減少した。	
	ガソリン使用量 (L/年)	8,871	1%削減 8,782	29.2%増加 11,459		△
	走行距離あたり軽油使用量 (L/百km・年)	279.58	1%削減 276.78	1.7%削減 274.71	○	
	一般廃棄物 排出量削減	一般廃棄物排出量（古紙を除く） (kg/年)	622.3	1%削減 616.08		0.4%増加 624.90
従業員1人あたり一廃排出量 (kg/人・年)		15.96	1%削減 15.80	5.8%増加 16.89	△	
水使用量 削減		水使用量 (㎡/年)	203.5	1%削減 201.47	1.5%削減 200.5	○ 水使用量はほぼ横ばいだが、本社に浄水サーバーを設置したことで、従業員一人当たりの使用量が増加になった。
		従業員1人あたり水使用量 (㎡/人・年)	5.22	1%削減 5.17	3.8%増加 5.42	
	グリーン購入の推進 (適合製品比率 %)		22	1%向上 23	現状維持 22	△ 現状維持できたが、コストを考慮しグリーン購入を推進できなかった。
	ドライブレコーダー平均点 (点)		82.7	1点向上 83.7	3.5点低下 79.2	
地域活動参加・実施回数 (回/年)		19	2回増加 21	9回減少 10	△ 地域清掃を定期開催できなかったために回数が減少した。	
環境・CSR教育実施回数 (回/年)		13	2回増加 15	12回増加 25		○
BCP(事業継続計画)の策定と運用		BCP策定中	BCP策定完了	BCP策定中	△ 東京支店も含めて策定する計画に変更したため未策定となった。	

※1：CO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り
(温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度「電気事業者別排出係数 -H30年度実績- R2.1.7環境省・経済産業省公表」参照)
[本社・物流本部] 五島市民電力 排出係数(調整後 2018年) 0.307kg-CO₂/kWh
[物流本部-洗車設備] 九州電力 排出係数(調整後 2018年) 0.347kg-CO₂/kWh
[中国支店] 中国電力 排出係数(調整後 2018年) 0.636kg-CO₂/kWh
※2：燃料はガソリンと軽油の2種類を使用
※39期 産業廃棄物排出実績：851kg

第39期 環境経営目標・活動計画に対する実績

2. 第39期 環境経営活動計画 活動評価

[活動評価基準] 活動実施：○、活動一部実施：△、活動未実施：×

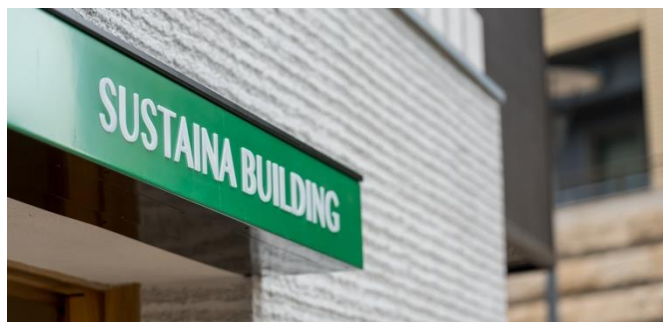
KPI項目	39期目標	活動内容	活動評価												総評
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
CO ₂ 排出量削減	38期比 1%削減	①電力使用量削減に向けた取組みの実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		②燃料使用量削減に向けた取組みの実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
電気使用量削減	38期比 1%削減	①事務所空調の適正温度設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	事務所に室温計を設置して適正温度を設定 年2回フィルター清掃、3ヶ月毎にフロン点検実施 初期設定で省電力に設定
		②空調の定期点検・清掃の実施	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	
		③OA機器の省電力設定徹底	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
燃料使用量削減	38期比 1%削減	①デジタコ・ドラレコによる評価と運転指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	日々運行データをチェックし点呼時に安全運転指導を実施 物流本部・中国支店に掲示して啓発 担当車両を決めて日次・月次・年次等点検と整備実施 H27年度燃費基準達成率の割合93.5%(29台)に向上 都度見直しを実施 管理シートにて集計し燃費推移グラフにて啓発 CHACHATやオンライン会議システムを積極活用
		②「エコドライブ10のすすめ」を推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		③収集運搬車両及び営業車両の定期車両整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		④収集運搬車両及び営業車両の低燃費車導入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	
		⑤定期的な運行ルート見直し	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	
		⑥燃料使用量集計管理・燃費推移データ共有にて啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		⑦非対面営業の推進による移動の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
一般廃棄物排出量削減	38期比 1%削減	①封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	真紙、使用済み封筒・クリアファイルの社内使用実施 分別BOX設置しリサイクル実施 大掃除で廃品等の整理・整頓実施 39期受注案件では26.2%を電子契約にて締結
		②紙ごみ分別によるリサイクルの推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		③5S活動による無駄な購入等の削減	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	
		④電子契約の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水使用量	38期比 1%削減	①節水ポスターの掲示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各拠点の水場に掲示実施
グリーン購入の推進	38期比 1%向上	①文房具購入の際にグリーン購入製品の導入検討	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	アスクルでの商品発注時に検索して購入
		②5S活動推進による適正な備品使用の実施	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	必要商品の適正低数を保持
ドライブレコーダー平均点	38期比 1点向上	①デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	日々運行データをチェックし点呼時に安全運転指導を実施 11/2(中国)安全運転、3/4(本社)緊急事態訓練・安全運転講習、3/16(物流)緊急事態訓練 物流本部・中国支店に掲示して啓発 平均点を毎月集計・共有 38期成績優秀者を表彰
		②外部講師等による安全講習の実施	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	
		③「エコドライブ10のすすめ」を推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		④月間ドライバー別ドラレコ平均点共有による啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		⑤年に1回、成績優秀者を表彰	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域活動参加・実施回数	38期比 2回増加 (21回)	①拠点別地域清掃活動の実施	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	毎月の開催が数回できなかった ボランティア休暇の取得奨励ができなかった 筑紫野市防災マップ協賛、飯塚半島地震義援金寄付を実施 検討した結果、地域からの調達は未実施 12/28に本社にて餅つき開催
		②ボランティア活動・地域活動への参加奨励	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		③地域イベント等への協賛・寄付等	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	
		④地域団体等からの調達	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	△	
		⑤ステークホルダー参加型イベントの開催	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	
環境・CSR教育実施回数	38期比 2回増加 (15回)	①ステークホルダーからの依頼等による講演の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	廃棄物や自律分散型の組織運営に関する講演を実施 自社主催のセミナー・イベントを開催
		②環境・CSR分野のセミナー開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
BCPの策定と運用	BCP 策定完了	①BCP計画書の作成	×	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東京支店開設に伴い、開設後に東京支店のBCPも含めて制作に計画変更
		②BCP計画書の社内周知	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第39期 環境経営活動報告

Topics

サスティナブルにこだわったサスティナビル

CSR



サスティナビルのサスティナブルなポイント



玄関 蔵の扉

東京都小平市にある、築50年を越える蔵で使用されていた扉です。解体される前に救出し、当社スタッフも共に丁寧に表面を削って再びいのちを吹き込みました。



家具・建具 センダン

広葉樹でありながら成長が早く、杉や檜の約2倍の早さで伐採できます。センダンを活用しさらに植樹が進むことで、地球温暖化の進行を抑えることも期待できます。



2F壁面 パッチワークガラス

解体現場からレスキューしたガラスや建具を職人さんの技術で組み立てパッチワークのようなガラス壁をつくりました。昔ながらの歪みやデザインなど個性が光っています。



1F壁面 サーキュラーコットンボード

洋服など廃棄される繊維ゴミをアップサイクルした建材『サーキュラーコットンボード』を採用しました。1階の一部に貼っており、空間のアクセントとなっています。

Topics

環境経営レポート大賞・九州にて 選考委員会特別賞を受賞しました！

当社の『2022年度・第38期 環境経営レポート』がエコアクション21環境経営レポート大賞・九州（主催：NPO法人九州環境カウンセラー協会）において、選考委員会特別賞を受賞しました。

環境経営レポートは、ステークホルダーの皆様と自社の環境マネジメントシステムの考え方や実施内容などをコミュニケーションするツールです。引き続き環境側面を含めたCSRの推進と、より当社をご理解いただけるよう情報発信に努めて参ります。



EA21



選考委員会からいただいた評価

廃棄物事業やCSR経営サポート事業など事業内容や、新たな自律分散型組織運営への取り組みを、グリーンを基調とした環境をイメージするデザインで構成され、グラフや写真、図表、イラストなどを効果的に使用し、読者に分かり易い環境経営レポートになるように工夫されている点が高く評価され、選考委員会特別賞を受賞されました。

第39期 環境経営活動報告

01 カーボン・オフセットの実施

CO₂排出量削減

廃棄物収集運搬車両の走行に伴って排出されたCO₂排出量の一部をカーボン・オフセットしました。38期(2022年7月～2023年6月)を対象期間とし、1年間の運行に伴うCO₂排出量の約10%に当たる120t-CO₂をオフセットしました。今回は、製紙工場におけるバイオマス固形燃料による化石燃料の代替により創出されたクレジットを調達しています。日々のエコドライブ推進、燃費効率の良い車両の導入などを進めてCO₂排出削減活動の実施と、更にカーボン・オフセットも行い、脱炭素社会へ貢献していきます。



カーボン・オフセットとは？

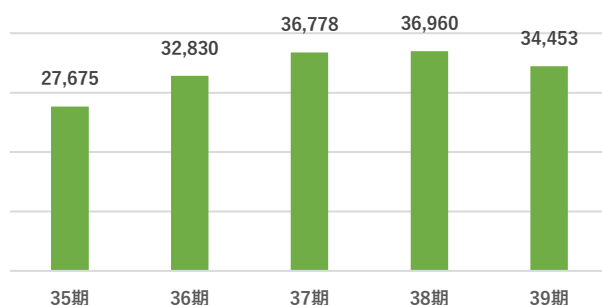
排出されるCO₂のうち、自分たちでどうしても削減できない排出量の全部または一部に関して、他の場所での排出削減・吸収量によって埋め合わせ(オフセット)することです。

02 電気使用量の削減に向けて

電気使用量削減

当社の電気使用量は事務所利用が中心で、その中でも空調使用が大きく占めています。定期的な空調清掃と点検などのメンテナンス、室内に温湿度計を設置して適正温度での使用を啓発しています。39期は東京支店開設に向けたプロジェクトや遠方現場での営業活動も影響し、事務所の稼働時間が減少。収集運搬車両の精査を行うことによって洗車機の稼働時間も減少し、使用量も減りました。現在の取り組みを着実に継続し、適正な電気の利用を行っています。

電気使用量推移(kWh)



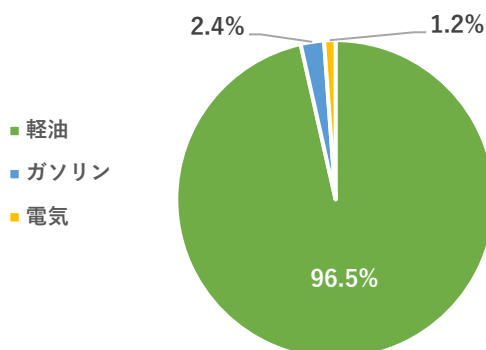
03 軽油使用量の削減に向けて

燃料使用量削減

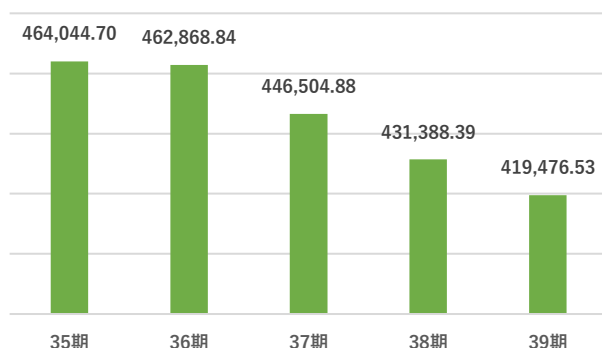
当社のCO₂排出量の96.5%を占めているのが、収集運搬事業に伴う軽油の使用量です。軽油の使用量削減は特に重点的な活動になります。低燃費を意識した運行の積み重ねが大きく結果に影響することから、日常的な取り組み強化に努めています。エコドライブの指標としてドライブレコーダーの点数や燃費管理を徹底したり、効率の良い運行ルートの調整や燃費基準達成車の導入など様々な活動を推進しています。その結果、走行距離あたりの軽油使用量も削減しております。これからも日々の活動を徹底して参ります。



当社のCO₂排出量構成



軽油使用量推移(ℓ)



第39期 環境経営活動報告

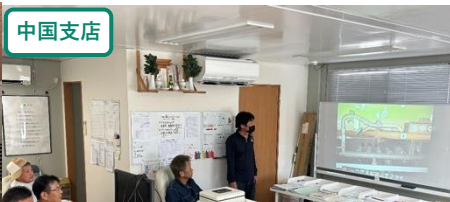
04 安全講習の実施

緊急事態対応
ドラレコ平均点

年に1回、緊急事態への対応や各事業におけるテーマを決めてスタッフ全員が必ず安全講習を受講しています。



火災・車両事故等の緊急事態対応手順の確認と、手順の一つとして、避難はしご設置のデモンストレーションを行いました。



トラック運送における関連法規や日常点検、運行管理、トラックの構造や特性などの基礎を学び、事故予防の考え方を深めました。



車両の故障やパンクなどの緊急事態対応手順の確認と、火災が起きた際の消防署への通報や水消火器を使った消火訓練を行いました。

05 地域清掃活動の実施

地域活動

各拠点にて定期的に地域清掃活動を行っています。本社では「福岡市道路サポーター」として登録し活動を行っています。この制度は、福岡市が管理する道路において、地域団体及びボランティア団体等が実施する道路の清掃・美化及び破損箇所の通報等の活動を支援することで、道路への関心と愛着を育み、市民と行政の協働による美しく安全なまちづくりに寄与することを目的としたものです。私たちが事業をさせていただいている地域への感謝の気持ちを表す活動として、今後も継続して参ります。



06 環境・CSRをテーマにした研修・講演の実施

環境CSR教育

ステークホルダーと共に持続可能な未来をつくっていくために、環境・CSRに関する研修や講演を行っています。39期は当社主催のセミナーやイベント多く開催し、25回もの機会でお話しさせていただきました。廃棄物関連のトピックスからCSRの一環としても取り組んでいる自律分散型組織の運営状況など、テーマは多岐にわたりました。当社で行っている活動が皆様の何かの気づきや活動のきっかけになればと願い、今後も積極的に実施していきます。



サステイナ勉強会 (2023年11月～)

廃棄物業界で共に働く仲間、特に業界内で従事している人がまだまだ少ない女性と共に、業界や所属する会社のサステナビリティ(持続可能性)を考えていく勉強会です。ESG(環境・社会・ガバナンス)の観点から毎回テーマを設定し、参加者同士のディスカッションやコミュニケーションを中心としたプログラムで共に学んでいきます。

39期実績 (一部)

2023年7月7日	重電メーカー様「技術連絡会」	石綿事前調査と大型機器廃棄の対応ポイント
2023年8月3日	経営コミュニティ様「経営をアップデートする勉強会」	自律分散型組織運営の説明・事例発表・意見交換
2024年3月7日	中小機構様「令和5年度事業承継フォーラム」	事業承継の歴史と自律分散型組織運営の紹介
2024年3月18日	九州グリーン購入ネットワーク様 「九州GPN グリーン購入セミナーin福岡」	SDGs達成を本気で目指す経営、CSR事例紹介
2024年4月12日	食品小売業様「新任担当者研修」	廃棄物管理の基礎、電子マニフェスト操作説明
2023年9月～10月	廃棄物管理セミナー	環境DXの進め方、石綿法改正対策など

環境関連法規等の遵守状況

1. 環境関連法規等 遵守評価

法令等の名称	適用される事業内容	該当条項等	法規の要求事項	評価結果
				2024/9/10
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物収集運搬業 特別管理産業廃棄物収集運搬業 環境コンサルタント業	第14条	収集運搬業許可取得と更新	○
		第12条	排出事業者との委託契約締結	○
		第12条	産業廃棄物収集運搬・処分業者との委託契約	○
		第12条の三	マニフェストの交付・管理・保管	○
		第12条	運搬車両への表示、マニフェスト携帯	○
労働安全衛生法	事業活動全般	第3条第1項	従業員の定期的な健康管理	○
			作業の安全衛生管理(粉塵・石綿等特別管理産業廃棄物への対策など)	○
道路交通安全法	事業活動全般	法全般	過積載防止	○
			積載方法の適切な管理	○
			消火器の用意	○
			日常点検業務の実施	○
			安全運転の実施	○
道路運送車両法	産業廃棄物収集運搬業 特別管理産業廃棄物収集運搬業 一般貨物自動車運送業	第47条	道路運送車両の保安基準順守	○
		第4条	道路運送車両の点検・整備	○
			道路運送車両の登録	○
自動車排出ガス規制	事業活動全般	自動車排出ガス規制値に準ずる	排気ガス温度の基準値の遵守	○
			低排出車両の導入推進	○
資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)	自社事業活動 環境コンサルタント業	第4条	使用済み物品の適切な再利用	○
			再生利用等の促進フローの提案・実施	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)	環境コンサルタント業	法第2条第5項	肥料化・飼料化や熱回収など、食品循環資源の再生利用を促進するフローの提案・実施	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	産業廃棄物収集運搬業 環境コンサルタント業	第6条	指定引取場所への運搬・製造業者や許可を受けた処分許可業者等へ引き渡すなど同法の順守	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	事業活動全般	第5条	自動車リサイクル促進センターに登録された事業者での引き取り・リサイクルの提案・実施	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラ循環法)	環境コンサルタント業	第44条他	排出事業者の排出抑制やリサイクルの提案実施	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	事業活動全般	第3章	フロンガス含有廃棄物の廃棄依頼時の取り扱い	○
			フロンガスを用いた機器の定期点検	○
環境基本法	事業活動全般	第9条	環境保全のための事業者の責務(ばい・塵、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な措置を講ずる、製品の使用又は廃棄による環境への負荷の軽減に努める)	○
地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)	事業活動全般	第5条	温室効果ガス排出の抑制	○
循環型社会形成推進基本法	事業活動全般	第11条	循環型社会の形成を推進する為の3R活動の提案・推進	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	事業活動全般	第5条	可能な限り環境物品等を選択	○
大気汚染防止法	環境コンサルタント業	第18条他	事前調査、作業計画、報告などの適正実施	○

2. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

過去3年間に於いて関係法規に関する関係機関等からの指導・指摘等、訴訟もありません。適用法令を全てチェックし問題ないことを確認しており、これらの法規については随時見直しを行い、事業活動に適用される環境法規制・条例等の遵守に努めます。

第40期 環境経営マネジメントについて

第40期からは、2024年4月にオープンした東京支店も環境経営活動を推進していきます。1年間活動を実施し基準となるデータを計測した上で、自律分散型の組織運営スタイルにおいて各事業における環境経営の状況と成果が見えるかどうかをポイントに、第41期からのKPI・活動計画を見直します。

新たな活動エリアでさらなる環境経営の促進から持続可能な企業への進化を目指していきます。

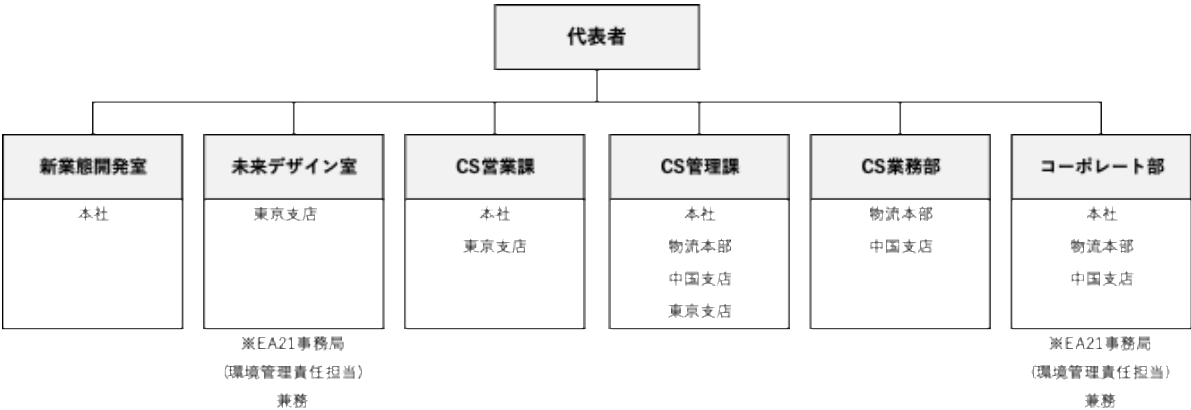
1. 対象の組織と活動

対象組織 本社、物流本部、中国支店、東京支店

※大牟田出張所は客先構内の休息所として設けられたもので、客先でISO14001認証取得済のため対象組織から除外

対象活動 (1)産業廃棄物収集運搬業
(2)特別管理産業廃棄物収集運搬業
(3)一般貨物自動車運送事業
(4)環境コンサルタント業

2. 実施体制



役割・責任・権限

代表者	・環境経営方針の策定 ・環境経営システム全体の評価及び見直し ・環境経営資源の確保
EA21事務局	・環境経営システムの構築・運用・管理 ・環境経営レポートの作成 ・環境教育や環境活動等の統括 ・その他エコアクション21に関する業務全般 ・各部門の環境活動実行推進
従業員	・環境経営方針及び環境目標を理解し、業務の中で環境経営システムの運用実施 ・環境活動の実行

第40期 環境経営マネジメントについて

3. 第40期 環境経営目標

KPI項目		基準年	中期目標		
決算期		38期	39期	40期	41期
開始年月/終了年月		2022年7月 /2023年6月	2023年7月 /2024年6月	2024年7月 /2025年6月	2025年7月 /2026年6月
CO ₂ 排出量 削減率	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /年)	1,147,301	1%削減 1,135,828	2%削減 1,124,355	3%削減 1,112,882
	走行距離あたりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /km・年)	743.55	1%削減 736.12	2%削減 728.68	3%削減 721.25
	電気使用量 (kWh/年)	36,960	1%削減 36,590	2%削減 36,221	3%削減 35,851
	売上あたり電気使用量 (kWh/百万円・年)	35.74	1%削減 35.39	2%削減 35.03	3%削減 34.67
燃料使用量 削減	軽油使用量 (L/年)	431,388	1%削減 427,075	2%削減 422,761	3%削減 418,447
	ガソリン使用量 (L/年)	8,871	1%削減 8,782	2%削減 8,693	3%削減 8,605
	走行距離あたり軽油使用量 (L/百km・年)	279.58	1%削減 276.78	2%削減 273.99	3%削減 271.19
一般廃棄物 排出量削減	一般廃棄物排出量（古紙を除く） (kg/年)	622.3	1%削減 616.08	2%削減 609.85	3%削減 603.63
	従業員1人あたり一廃排出量 (kg/人・年)	15.96	1%削減 15.80	2%削減 15.64	3%削減 15.48
水使用量 削減	水使用量 (㎡/年)	203.5	1%削減 201.47	2%削減 199.43	3%削減 197.40
	従業員1人あたり水使用量 (㎡/人・年)	5.22	1%削減 5.17	2%削減 5.11	3%削減 5.06
グリーン購入の推進 (適合製品比率 %)		22	1%向上 23	2%向上 24	3%向上 25
ドライブレコーダー平均点 (点)		82.7	1点向上 83.7	2点向上 84.7	3点向上 85.7
地域活動参加・実施回数 (回/年)		19	2回増加 21	3回増加 22	4回増加 23
環境・CSR教育実施回数 (回/年)		13	2回増加 15	4回増加 17	6回増加 19
BCP(事業継続計画)の策定と運用		BCP策定中	BCP策定完了	BCP運用開始	BCP運用改善

※電気使用量におけるCO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り
(温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度「電気事業者別排出係数 -R3年度実績- R5.1.24 環境省・経済産業省公表」参照)
[本社,物流本部] 五島市民電力 調整後排出係数 0.332kg-CO2/kWh [物流本部-洗車設備] 九州電力 調整後排出係数 0.382kg-CO2/kWh
[中国支店] 中国電力 調整後排出係数 0.536kg-CO2/kWh

第40期 環境経営マネジメントについて

4. 第40期 環境経営活動計画

KPI項目	40期目標	活動内容	担当
CO ₂ 排出量 削減	38期比 2%削減	①電力使用量削減に向けた取組みの実施 ②燃料使用量削減に向けた取組みの実施	全社
電気使用量 削減	38期比 2%削減	①事務所空調の適正温度設定 ②空調の定期点検・清掃の実施 ③OA機器の省電力設定徹底	全社
燃料使用量 削減	38期比 2%削減	①デジタコ・ドラレコによる評価と運転指導 ②「エコドライブ10のすすめ」を推進 ③収集運搬車両及び営業車両の定期車両整備 ④収集運搬車両及び営業車両の低燃費車導入 ⑤定期的な運行ルート見直し ⑥燃料使用量の集計管理と燃費推移データ共有による啓発 ⑦非対面営業の推進による移動の削減	物流本部 中国支店
一般廃棄物 排出量削減	38期比 2%削減	①封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進 ②紙ごみ分別によるリサイクルの推進 ③5S活動による無駄な購入等の削減 ④電子契約の推進	全社
水使用量	38期比 2%削減	①節水ポスターの掲示	全社
グリーン購入 の推進	38期比 2%向上	①文房具購入の際にグリーン購入製品の導入検討 ②5S活動推進による適正な備品使用の実施	全社
ドライブレコーダー 平均点	38期比 2点向上	①デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 ②外部講師による安全講習の実施 ③「エコドライブ10のすすめ」を推進 ④月間ドライバー別ドラレコ平均点共有による啓発 ⑤年に1回、成績優秀者を表彰	物流本部 中国支店
地域活動 参加・実施回数	38期比 3回増加 (22回)	①拠点別地域清掃活動の実施 ②ボランティア活動・地域活動への参加奨励 ③地域イベント等への協賛・寄付等 ④地域団体等からの調達 ⑤ステークホルダー参加型イベントの開催	全社
環境・CSR教育 実施回数	38期比 4回増加 (17回)	①ステークホルダーからの依頼等による講演の実施 ②環境・CSR分野のセミナー開催	本社 東京支店
BCPの策定と 運用	BCP 運用開始	①BCP計画書の作成 ②BCP計画書の社内周知	全社

代表者による全体評価と見直し・指示

1. 39期の環境マネジメント活動について

39期は変化の多い一年でした。役員体制の変更、東京支店の開設など、自律分散型の組織運営のもと、当社の提供価値を最大化するために大きな施策を講じて参りました。

事業活動にも変化があり、廃棄物管理ワンストップサービスがさらに拡大を見せる中、自社車両による運行量は当社の特徴的である焼却灰の運行や小型車両による少量運搬の割合がさらに増加することになりました。

このような事業環境の中、環境経営マネジメントは継続して機能しています。東京支店開設した4月からも事務所や営業担当における環境活動や必要なデータの管理やはすでに取り組みをスタートしており、定着していると感じています。

環境経営目標は新たなKPIを設立して1年目の評価となりました。当社のCO2排出量の一番の起因である軽油使用に関しては、走行距離あたりの軽油使用量を新たに設け、車両の精査やエコドライブの加速により目標達成となりました。一方でガソリンの使用量は約30%増加し、営業活動範囲の変化や、小型車両による収集運搬の増加などが要因として考えられます。より細やかな活動推進のためにも、詳細のデータ管理にレベルアップするタイミングであると考えています。また、働き方の多様化や新しい拠点への移籍を背景に、出社人数が減少・分散し、地域活動が計画通りに実行できませんでした。私たちは地域のご理解があつてこそ、事業活動を展開できています。開催に向けた工夫を行い、適切に実行してコミュニケーションの機会を創出して行きます。

2. 今後の環境マネジメント活動について

環境経営は、事業運営にも必要な数値を管理しながら、もっといい未来を創造していく活動です。当社では事業運営も3つのチームで行っており、各事業ごとに持続可能な社会に向けて貢献できる重点テーマが分かれております。

40期からは、東京支店も対象範囲に加え本格的に活動を実施して参ります。1年間活動を行いデータを収集・分析し、41期からは拠点別にKPIを設定し環境経営目標を立てて活動を加速化していく計画です。そのためには、より一人一人が環境経営を意識した上で、日々の業務を行っていくことが重要です。意識啓発に向けて、EA21事務局の動きを活性化させていきたいと思ひます。

当社の廃棄物・CSR経営サポート事業は、皆様のお役に立てれば立てるほど、持続可能な未来につながっていくと確信しています。環境経営を行いながら提供価値を最大化させていき、持続可能な企業と社会の実現に貢献して参ります。

2024年9月13日
代表取締役社長 川添 憲二

Brand concept

For Sustainable Tomorrows

持続可能な未来のために

Statement

私たちGreen propグループは
持続可能な未来環境を共創するアライアンスパートナーです。

自然と社会の美しい連鎖と循環を生み出すために
企業はもちろん、自治体、NPO法人、福祉法人など
あらゆる分野の組織体と提携し
人と人、人と社会、人と自然がもっと豊かに通じ合う未来を
パートナーと共に創りあげていきます。

For Sustainable Tomorrowsー持続可能な未来のために。
私たちが展開する事業は、すべてこの一点に帰着します。
その実現を自らのミッションと定め、胸に刻み
前進し続けることを、私たちはここに誓います。

Action guides

1. 未来から今を見つめる。

現在の価値観にとらわれるのではなく、たとえば「50年後、100年後の人々なら、どう考えるだろう」という未来からの視点で物事を考え、プランニングします。

私たちは時代の半歩先を見つめ、決して変化を恐れません。

3. 走りながら考える。

仕事を進める上ではスピードを重視します。危険なのは最適解を追い求めるあまり、最初の一歩を踏み出さないこと。行動が先。

私たちは常に走りながら新たな情報を取り込み、修正し、結果として最高のソリューションを提供します。

5. 人の役に立つことを喜びとする。

お客様、ともに働く社員、取引先、協力企業、同じ地域社会で暮らす人々など、目の前の人のお役に立てたとき、それが私たちにとって何ものにも代えがたい喜びです。

常に「その人のために自分ができる最大のことは何か」を考えます。

7. 「儲かりそうだから」では動かない。

業務を継続していく上で、一定の利益は必要です。ただし、「儲かるから」という理由では絶対に動きません。「持続可能な未来のために」というビジョンに沿った事業のみに絞り込み、私たちはその実現に向けてすべての力を注ぎます。

9. 常に地球環境を意識する。

私たちは業務を通じて地球環境の改善に貢献します。行動するときは必ず「地球環境の改善につながるか」と自問し、プラスになることだけに注力します。

その小さな営みが、地域に、日本に、そして世界に広がることを信じます。

2. お客様を徹底的に知る。

私たちが最も心を注ぐべきは取引を継続してくださっているお客様です。

どうすればお役に立てるのか。自分の考えはいったん脇に置き、相手の話をよく聴いて現状を把握すること。あざやかな問題解決はその先にあるのです。

4. 今日も笑顔の花を咲かせる。

私たちの大きな特長、それは「よく笑う」こと。社内でも取引先でも、いつも笑顔で、仕事を楽します。壁にぶつかっても笑顔で乗り越え、肩を落としている人がいたら、笑顔で励まします。笑顔は私たちのトレードマークです。

6. 相手のそのまますを受け入れる。

人の長所をうらやんだり、短所を批判したりせず、そのまますの相手を受容します。互いの違いを認め、尊重し、苦手を補いあい、良い部分が活かせる環境づくりのための工夫を続けます。私たちは様々な才能の集合体なのです。

8. 会話の終わりに「ありがとう」。

お客様にサービスが提供できるのは、社員だけでなく、協力会社を含めた仲間が存在があってこそです。

お客様への感謝はもちろん、ともに働く人たちとのちょっとした会話の中でも必ず「ありがとう」の一声を掛け合います。

10. 「愛」を育み続ける。

すべての根底にあるのは「愛」。

私たちは愛の心を日々、大切に育み、大きくしています。そして、その愛を惜しみなく捧げること、さらに大きな愛を手に入れます。

この愛のプラススパイラルこそが私たちの仕事の本質です。



Web site



Instagram



Facebook



GREEN PROP